

財務ハイライト

平成28年度 決算のポイント

<単体>

- 実質業務純益は、非金利利益の増加、経費の減少及び債券関係損益の改善があったものの、貸出金及び有価証券の利回り低下による資金利益減少をカバーするには至らず、前期比14億円減少の157億円となりました。
- 経常利益は、与信関係費用の減少や株式等売却益の増加により前期比5億円減の170億円となりました。また、当期純利益は、法人税等の増加もあり、前期比22億円減の90億円となりました。

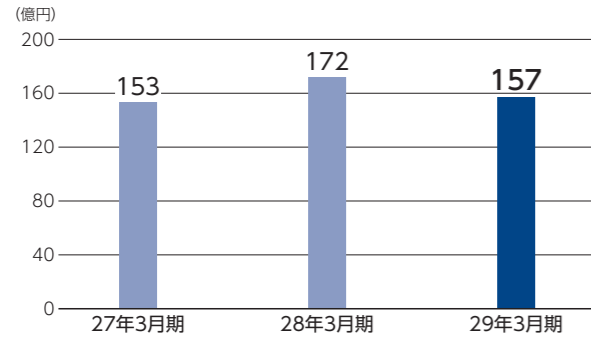
<連結>

- 経常利益は、前期比2億円減の193億円、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期比19億円減の96億円となりました。

利益の状況(単体)

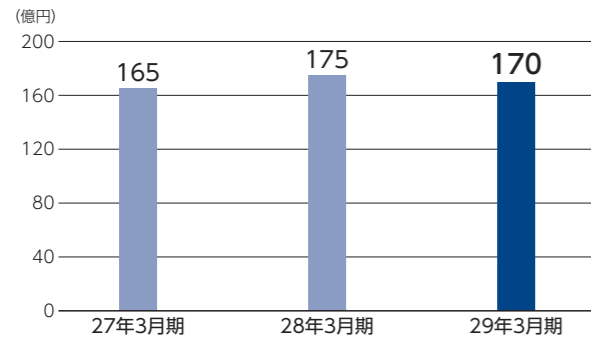
■ 実質業務純益

157 億円
(前期比14億円減少)



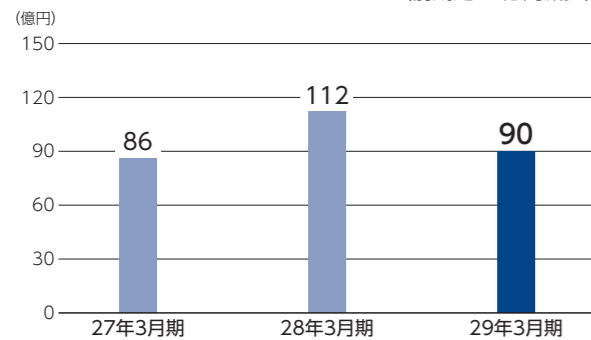
■ 経常利益

170 億円
(前期比5億円減少)



■ 当期純利益

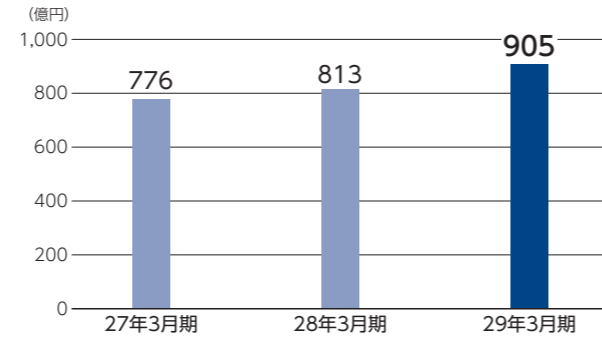
90 億円
(前期比22億円減少)



利益の状況(連結)

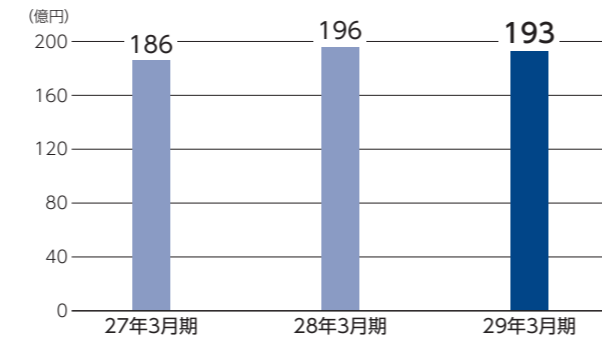
■ 経常収益

905 億円
(前期比91億円増加)



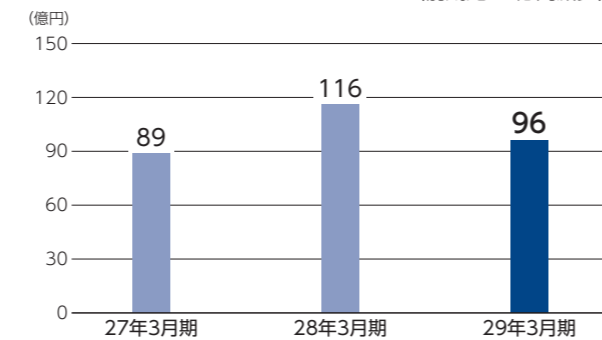
■ 経常利益

193 億円
(前期比2億円減少)



■ 親会社株主に帰属する当期純利益

96 億円
(前期比19億円減少)

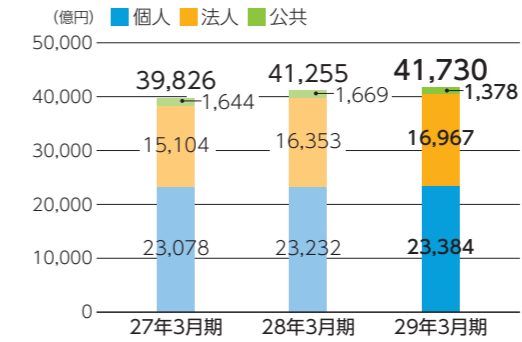


主要勘定の状況(単体)

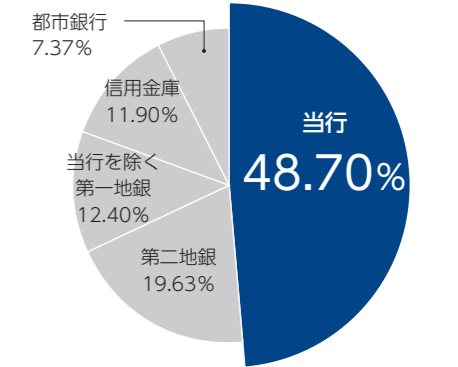
■ 総預金(譲渡性預金含む)

4兆1,730 億円
(前期比474億円増加)

公共預金は減少しましたが、個人及び法人預金が増加し、前期比474億円増加の4兆1,730億円となりました。地元香川県における当行のシェアは約5割を確保しております。



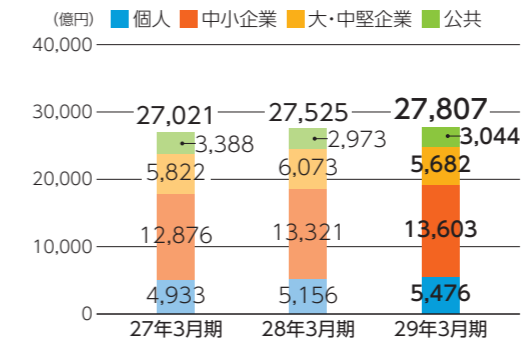
香川県における当行の預金シェア



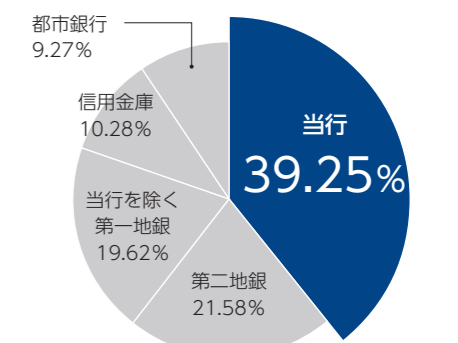
■ 貸出金

2兆7,807 億円
(前期比282億円増加)

中小企業及び個人向け貸出を推進した結果、前期比282億円増加の2兆7,807億円となりました。地元香川県における当行のシェアは約4割を確保しております。



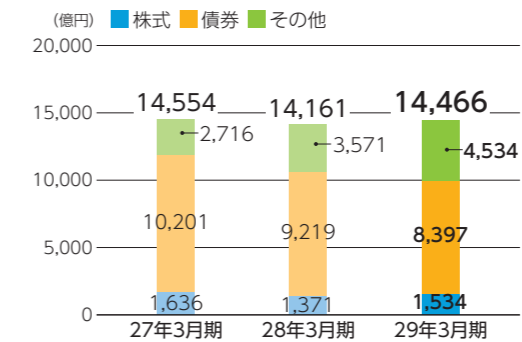
香川県における当行の貸出金シェア



■ 有価証券

1兆4,466 億円
(前期比304億円増加)

債券残高が減少したものの、株価の上昇を受け、株式及びその他(投資信託、外国証券等)の残高が増加したことにより、前期比304億円増加の1兆4,466億円となりました。



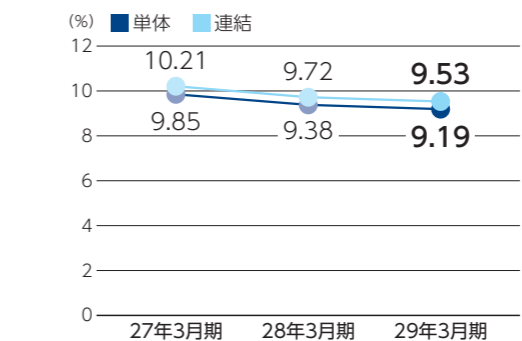
健全性の状況

■ 自己資本比率(国内基準)

単体ベース **9.19%**

連結ベース **9.53%**

自己資本比率は、劣後性調達の一部期限前返済を行った結果低下しましたが、日本国内のみで業務を営む銀行(国内基準)に求められる4%を大きく上回っております。また、格付会社からも経営の健全性が評価されております。



格付

ムーディーズ Moody's **A3**

日本格付研究所 JCR **A**